

平成29年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 2 - 16
事務事業名	葬斎場建設事業			担当課係	市民生活課 環境企画・公害担当
総合計画上の位置付け	政 策	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		記入担当者	
	基本目標	2. 快適な暮らしづくり		内 線 等	
	施 策	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		E-mail	
	基本方針	2-1-5 生活関連施設の整備			
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	4	衛生費	項	1
	目	4-94	葬斎場費・葬斎場費（繰越明許費）	事業	4-5
開 始 年 度	平成 25	年度	根拠法令・要綱等	墓地、埋葬等に関する法律、小松島市葬斎場の設置および管理に関する条例	

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 火葬を行おうとする者
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 高齢化社会の進展により想定される火葬件数の増加や、災害時における施設の安定的な稼働にも対応できる、管理運営のあり方も含めた一体的な施設整備を行う。
事業の内容 (内容・手法等)	(こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 既存葬斎場の隣地に新葬斎場を整備するとともに、並行して新葬斎場の管理運営に当たる指定管理者を公募型プロポーザルにより選定した。新施設が完成し、業務を開始した後は、旧葬斎場を解体し、跡地に駐車場を整備する。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 旧葬斎場は昭和46年の設置後、建物の老朽化により、平成28年5月に本体工事に着手し、平成29年7月より供用を開始している。また南海トラフ巨大地震などの大規模災害の発生も危惧されており、津波一時避難施設としての機能も有した施設整備も求められた。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	単位		H28	H29	H30	H31		目標年度 目標値
			目 標	実 績	達 成 度			
活動実績・参考となる指標	火葬件数	件	計画	実績	602	648		市内外、肢体も含む火葬件数
			計画	実績				
			計画	実績				
			計画	実績				
			計画	実績				
			計画	実績				

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		28年度決算	29年度決算	29年度予算	30年度予算		
全体コスト（円）	A	直接事業費		416,488,055	546,448,614	588,805,000	71,578,000
	財源内訳	国県支出金					
		地方債		369,900,000	479,300,000		
		利用者負担					
	一般財源		46,588,055	67,148,614			
	B	人件費 ①×②		4,422,560	4,359,110		
		職員平均人件費①	6,803,939	7,265,184			
	従事した割合②/人	0.65	0.60				
A + B		420,910,615	550,807,724				
単位コスト	活動指標の説明					備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト					平成28年4月1日現在 人口39,358人	
	市民一人あたりのコスト		10,694	14,190		平成29年4月1日現在 人口38,817人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 定住自立圏連携事業による広域利用と可能としたことから、連携市町村住民による利用増加が見込まれる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 葬斎場の整備にあたっては、津波一時避難機能を備えた早期の整備についての意見もあった。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	安全・安心で快適に暮らせるまちづくりのため、市民の要望に応えながら整備を行う必要性は高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	火葬場の経営は法律の規定上、民間は参入しづらく、周辺自治体に火葬を受け入れをしてもらうにも限度があるため、市において整備する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	平成29年7月の施設供用以降、指定管理者による業務を開始しており、効率的な運営を進めている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	長年における市の懸案課題として、他の事業に優先して実施する必要があった。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	建替えによる施設の機能性・利便性の向上や、運営に精通した指定管理者による効率的な運営のほか、定住自立圏連携事業による広域利用もあり、利用件数は前年度より増加している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	利用者の利便性向上、人間の尊厳に配慮した施設機能の安定的な維持・管理が必要である。また、今後、長期にわたり施設を運営していくにあたり、周辺土地所有者や近隣住民との信頼関係を維持していく必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	4	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由	平成25年度から進めていた葬斎場建設事業は、駐車場整備工事の工程により完了となる。		
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点					
		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点				評価点	93
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点				1	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下					

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	4	1 拡 充 す る	判定説明	今後も、周辺の土地所有者や近隣住民に配慮した、施設の維持・管理運営に努めていく。
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 終期設定し終了		
		5 完了・休止・廃止		